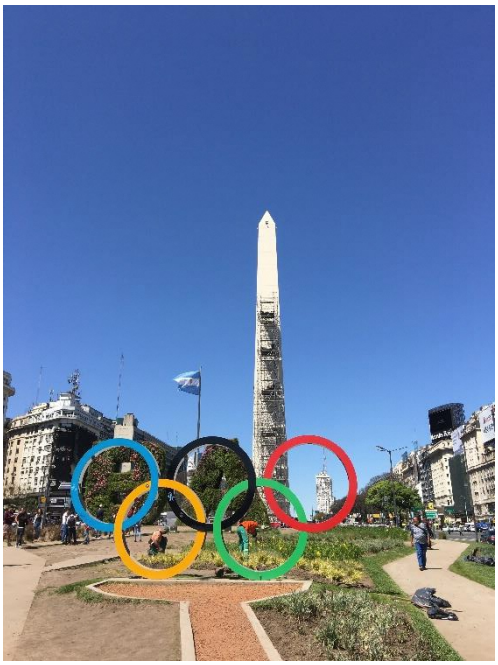
JICA 日系社会シニア海外協力隊の小澤道子です。アルゼンチンからお便りします。

前回、アルゼンチンの経済危機についてお話しました。そんな状況のなか、１０月６日から１８日まで、ここアルゼンチンのブエノス・アイレスで　ユース・オリンピックが開かれました。私の赴任先はブエノス・アイレスから飛行機で２時間のところですから、実際にオリンピックをこの目で見られるとは思っていませんでした。



ところが、ちょうどこの期間に合わせたように、１年に１度だけ、協力隊員全員が必ず出席しなければならない『安全対策連絡協議会　(JICA が隊員全体に安全に関する注意喚起を行う会議です)　』がブエノス・アイレスで行われました。なんという幸運でしょう。１日半という短い時間でしたユース･オリンピックをこの目で見ることができました。

今回のオリンピックを観戦するためには、あらかじめ IC が付いている入場パスをもらう必要がありました。パソコンから申し込むのですが、入場パスは指定場所に取りに行かなければなりませんでした。ブエノス・アイレスの友人にお願いし、写真のような入場パスを手に入れることができました。この IC タグのおかげで毎日『今日の競技予定や見どころ』が私のメールアドレスに届きました。

６日に行われた開会式は７月９日通り(幅が５０メートルほどもある世界で一番広い通り）　の中心にあるオベリスク付近で行われました。入場無料のため多くの人が押し寄せたそうです。ブエノス・アイレスに住む私の友人もあまりの人でそばまで行けず、結局、家のテレビで見たそうです。当然、サルタ在住の私はテレビでしか見ることができませんでした。
出典：AMERICA TV（民営放送）10 月 6 日放映

オベリスクはブエノス・アイレスのランドマークです。この垂直な壁面を水平に見立て、自転車レースやボートレースを再現した演出は、最初 CG かと思うほど突拍子もなく写りました。選手、自転車、ボートなどロープで吊るして上まで持ち上げるのですが、その意外性に多くの人が感動したと思います。そして、何よりも最小限の費用で最大限のインパクトを与えた演出に賞讃です。

オリンピック種目は、ブエノス・アイレス市内の９か所の施設で行われましたが、メイン会場のオリンピック・パークを除いて特にお金をかけた様子はありませんでした。ブエノス・アイレスの中心地でさえ、オリンピックの旗もポスターも見当たりませんでした。いつもの通りの生活が続いているように思えました。本当にオリンピックが行われているのか疑心暗鬼になるほどでした。

私が観戦したのはオリンピック・パークで行われた水泳と、グリーンパークで行われたテニスでした。会場では多くの青年ボランティアが活躍していましたが、訪れる観客もまた若者が多い印象でした。オリンピック・パークでは遠足で来たと思われる小学生、中学生、高校生がたくさんいました。

残念ながら、日本人の試合を見ることはできませんでしたが、報道を見る限りでは、卓球や柔道、空手を始め、今年新たにオリンピック種目になったブレイクダンスでも日本の若い世代が活躍しましたね。２０２０年のオリンピックが楽しみです。

お金をかけなかったブエノス・アイレスのユース・オリンピックは１９日に閉幕し、経済危機のニュースがまたトップニュースになっています。